

倫理 第39回「実存主義の先駆者～キルケゴールとニーチェ～」

○今回のポイント

○実存主義とは何か

- ・大衆社会の成立

資本主義 → 人間疎外の状況(画一化) → 無力感・不安感・孤独感を日常の惰性的生活で癒す → 大衆化

- ・大衆の特性 ← 実存主義は批判！！

①「個性的で主体的な真の自己」を創造していくことを放棄して、**安易で怠惰な日常性(マイホーム主義、家庭生活、大衆娯楽)へ逃避**する。

②無気力に**世間的常識や流行に自分を順応**させ、きびしい自己創造の自覚的努力を放棄し、**一般的な平均人として生きる**。

- ・【① _____】とは何か？

現代社会の疎外状況を直視し、各個人の内面的な自覚・決断・努力によって、誰とも取り換えのきかない、かけがえのない主体性を確立し、このことによって人間の自己疎外を克服することを目指す思想。

Cf.人間疎外を【② _____】により克服しようとしたマルクス主義と対比せよ！

○【③ _____】

○大地震：父親が貧しさにより神を呪う&父がメイドを結婚前に孕ませてしまう

○10歳年下のレギーネに対して婚約を破棄

(1)例外者と主体的真理

a.現代はニクソンが画一化・平均化している「水平化の時代」。

⇒個性的、主体的に生きる人間、真に実存する人間が必要 ⇒単独者、【④ _____】として生きる人間！！

- ※①たった一度しかない自分の人生を納得のいくように生きること
- ※②自分を見失わずに独力で己が人生を切り開くこと
- ※③自由な主体として生きること

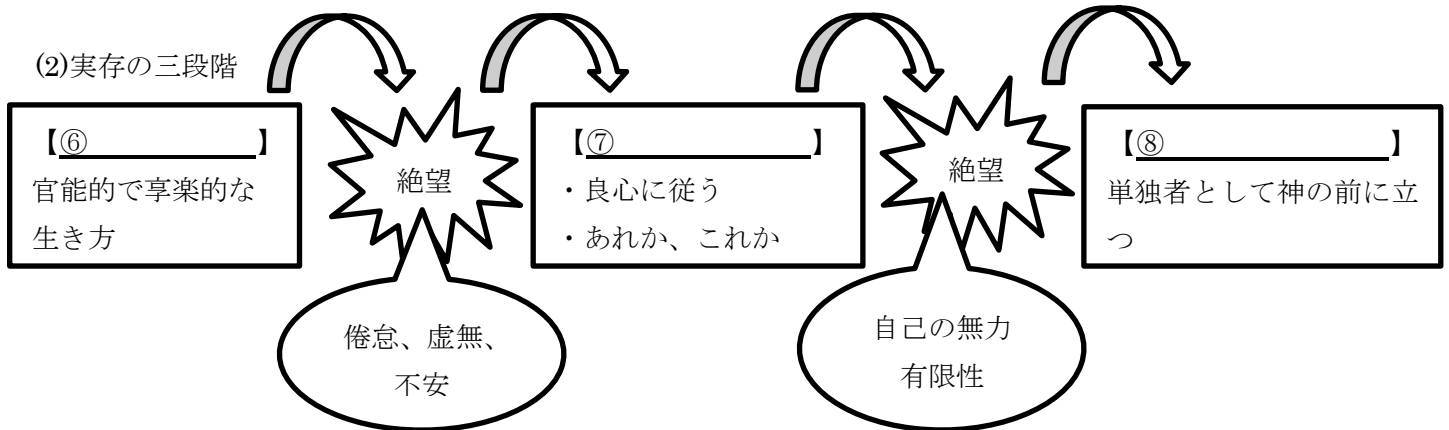
b.ヘーゲル批判

⇒ヘーゲルは、客観的真理・普遍的真理の重要性を主張するが・・・そんな真理は枠内にあるの？

⇒「私にとって真理であるような真理を発見し、私がそれのために生き、そして死にたいと思うようなイデー(理念)を発見する」ことが重要。

※私だけに当てはまる真理=【⑤ _____】

(2)実存の三段階



自己の自由な決断(理性ではなく**信仰の熱情**)によって、絶対者としての神と結びついたとき、真の人間性の主体性が実現される。

【⑨】

(1) 【⑩】 (虚無主義)の時代

人間はもともと【⑪】 (自己の弱さにうちかって、より強くより高くなろうとし、新しい人生の価値を作り上げていく意志) をもっていたが・・・



キリスト教道徳は【⑫】 !

富裕階層

迫害

社会的弱者

「カネモチになりたい。でもなれない」
⇒キリスト教：天国は貧しき者のもの
(無能さの正当化)

強者への【⑬】 (怨恨)から、想像の世界で復讐(キリスト教の創造)



力への意志が凡庸化・平均化される



人間は人生の目標や意義を喪失し、虚無主義に陥る

(2)超人

キリスト教道徳 (奴隷道徳) からの人間性を解放せよ!!



「【⑭】」: 既成の道徳や価値観、人間が支えとしてきた一切の価値を破壊。



では、神に代わって何を目標とし、何を支えとすべきか?



「【⑮】」…**力への意志**に燃え、イキイキとした人生をおくり、新しい価値を創造する人間



現実の世界を「【⑯】」と認識する。

現実の世界は目的もなく、意味もない、永遠の繰り返しであり、同一の姿・順序での生成流転の世界であるとする考え方。



【⑰】…ニヒリズムの世界を直視、肯定し、愛し、「【⑱】」と運命を受容する。無意味な人生の悲惨さを乗り越え、ニヒリズムを克服しようというのが、神無き世界を生き抜く超人の姿。